

めぶく。プラットフォーム前橋
(地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進協議会)
第2回会議(第1回運営委員会)
議事要旨

1. 日時

平成30年 12月17日(月) 10時00分～11時45分

2. 場所

共愛学園前橋国際大学 3301教室

3. 議事要旨

(1) 開会

(事務局)

本会議の会議目的は、課題の洗い出しでございます。課題について各界の事務局よりご報告いたしますので、ご協議をお願い致します。次回会議では本日頂戴しましたご意見を集約しまして、本プラットフォームが取り組むべき方向性をご協議いただく予定となっております。また、本日の会議ですが、出席者間での共有を目的に会議録を作成します。

(2) 課題の洗い出し

(共愛学園前橋国際大学 大森学長)

本日は前橋市内で最もお忙しい皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。

産官学一緒の取組なので、会場も各界でもちまわりさせていただきます。

第1回で運営委員会設置となりまして、発起人ということもあり委員長を仰せつかっているので、進行をさせていただきます。事務局からの今後の進め方について説明があった通り、年度内に2～3回会議を開き、このプラットフォームで、どういう課題があって、どういうことをしていきたいのか、お互いに共有をして、議論を進めていければと考えております。

まずは背景としてのデータなどを共有し、それから具体的な課題や取り組みなどの議論をさせていただければと思います。

少し先の話にはなりますが、資料4については、あくまでも例であって、左側で様々な課題を各界から出していただき、それに対して、委員の皆様から様々な意見をいただきます。意見を出し尽くし、次回どんなことが出来るかということも踏まえ、部会についての議論を行います。運営委員会ですべてを議論することは難しいので、次回以降各テーマ別の部会を設置し、その部会設置に向けた方向性などの議論を行いたいと思います。本日は左側の部分で、そのための課題などの洗い出しをします。これまでの様々な情報について共有をしてき

ましたが、今日改めて各界の事務局からプラットフォームに関する課題についてご報告させていただきます。

(2-(1)) プラットフォームを取り巻く背景

事務局より行政・教育界・産業界の順で、資料1、2、3について説明
資料2 参考資料について大森委員長より補足説明

(大森委員長)

ここまでのところでデータに関する質問はありますか？

(教育界委員)

資料3について、廃業が多い理由はどうしてでしょうか？

(事務局)

このデータでははっきりとした理由まで出ていませんが、支店の統廃合で前橋市外に出て行くことや、本社を前橋市外へ移転すること、個人商店などでは後継ぎがない等も含まれるため、色々な廃業の形があります。

(教育界委員)

資料2について、高校の所在地別のデータとなっていますが、市内に住んでいるかどうか直結しないと思いますが、どのように調べが行われていますか？

(事務局)

データは高校所在地までで、住まいと一致しているか調べは行われていません。

(教育界委員)

資料1の15～19歳、20～24歳の転入転出も住民票の届けなのでしょうか？

若者定着に向けた数の把握について、前提を決めることが大事になってくるのではないのでしょうか？

(事務局)

資料1については、住民票の異動情報に基づくデータです。不確実性が高まっているのは、15～19歳の情報で、住民票を移さずに都内に進学している人が一定数存在します。

(事務局)

概況はわかっているが中身は詳しくわかっていないことが課題であると認識しています。

(大森委員長)

15～19歳の移動については、大学進学者ではない可能性もあります。前橋の高校生全員が前橋の住民票を持っているともいえません。ただし、市内12の高校に、高校単位で前橋へ進学しませんか、というアプローチには繋がります。また、前橋12高校を卒業した生徒が、前橋6大学に進学し、就職時に前橋へ就職する割合も高いというデータもあるので、市内大学への進学は、地元に着定を促す意義が見えてきます。これまでは市内12高校からの程度前橋6大学に進学していたのか把握できていませんでしたが、第一段階として今回データが集まりました。今後もし、高校との協力の中で、それぞれの生徒の住所地の構成などもわかると、より良いですが、まだそこまでは至っていません。

(行政委員)

資料2の②について、市内外、県外者の就職状況は、思っていた以上に県内に就職していることがわかりました。

(大森委員長)

参考までに、入学者と就職者の数は年度が違うので、同じにはなりません。また、就職者数について事務局の表現が「就職できている」となっていますが、「就職した」人数です。就職しない学生のうちには大学院への進学や、臨床研修などもたくさん含まれています。

((2) - (2))

(大森委員長)

プラットフォームで対応すべき課題や取組みとして、事務局から資料4の左側について説明いただき、これに対して意見や議論などをいただきたいと思います。出た意見を集約し、次回、課題に対応する部会について議論を行いたいと思います。

(事務局)

事務局より行政・教育界・産業界の順で、資料3、5、6について説明

(大森委員長)

事務局からの説明を受けて、これからご意見をいただければと思います。ここに挙がっているものすべてをするのではなく、精査して実行を考えます。検討した結果、やるものもあれば、やらないものも出る可能性があります。

(教育界委員)

行政の取組で介護について取り上げていただいたのはありがたかったです。人材不足なので、老人施設を作っても、働く人がいないため、成立しません。経済連携協定(EPA)

など、海外から留学生を受け入れて、日本で2年間勉強させ、資格を取得の後に、施設で働かせる取組を本学ではしています。少子高齢化が社会の課題なので、少子と高齢化を分けて考える必要があるのではないのでしょうか。少子をどう前橋市で解決するのか、その解決策が学び直したと考えています。高齢化の課題を産業界・行政とどう解決するのが大切です。

(大森委員長)

教育界にとっても少子化は課題であります。すでに18歳人口については18年先まで数が決まっている状態です。子育て支援をどうするか？こども園をどの程度拡大するか？そのために保育人材の不足をどうするかなどの問題が挙がってくるので、本プラットフォームの外にある課題かなと認識していましたが、そうではないということでしょうか。鈴木先生のお考えになっている学びなおしとは、保育の学びなおしでしょうか。

(教育界委員)

教育機関で、保育やヘルパーの学びなおし等を通じて、社会に貢献できると考えています。

(教育界委員)

前橋の大学で、様々な分野がカバーされていることがわかります。どう市民の方々に理解してもらえるかが大切なのではないのでしょうか。前橋に住んでいる保護者の理解がないと、なかなか浸透していかないのではと感じました。高大産官接続など通じて、小さいこどものころから、家庭でどう話題にでるのか、考えなければなりません。高校まで来てしまっただけから、前橋進学を考えようとしても、生徒達の進路はあまり変わらないのではないのでしょうか。こういった取組みも常に意識に入れて検討しなければなりません。

(事務局)

事務局でもそう考えており、保護者がそのことを意識しない限り、実現しません。市外の大学、市外の人材を入れることを否定するわけではありませんが、地域の繋がりや、心の豊かさを求めるということを、どう子ども達だけでなく、親にもわかってもらう必要があると考えています。

(教育界委員)

このプラットフォームが若者定着であるとする、少しずれるかもしれませんが、産官学で一つのところで何かをしようということなので、産業界と6大学の繋がりをもっと深め、大学と一緒に何かをやる方がいいのではないのでしょうか。例えば、インターンシップについて、産業界からの協力がなければ実施できません。特に理系の大学は厳しいです。群馬銀行の例では、企業が儲かるために、新しい技術開発やコスト削減など、銀行が企業に入って対応していることなどもあります。これを大学も入って一緒に対応するなどできる

いでしょうか。市内の企業に市内理系大学から就職するなどは、共同研究などを通じていないとあまりありません。インターンで1週間など行っているとその企業への就職も多いようです。商工会議所を中心に企業の情報を吸い上げてもらい、市内大学とマッチングを行えば、市内就職に繋がるのではないかと考えています。

(教育界委員)

文部科学省の就職問題懇談会に出席していますが、経団連側から、大学と経済側との継続的な話し合いをすることが必要だとアドバイスがありました。文系・理系の代表者を、バランスをとって集めるなど、お互いに理解をする必要があります。

(産業界委員)

プラットフォームで考えることは、入口として、社会全体でどうかということと、個人としてどうかということだと思います。まず社会全体については、一人ひとりが過度のサービスを求めすぎているので、それをどうやって改善していくのかが、テーマの一つにあると思います。もうひとつは個人としてどうかということで、多様な生き方があり、専門的に生きたいと考えて自分の人生に生きがいを感じる人、プロジェクトマネージャーのプロとして生きたいと考える人もいます。こういう切り口からの考え方もあるのではないのでしょうか。

(大森委員長)

先日岩手大学のしている若者育成スキームに参加しました。宮下理事長がおっしゃったことと全く同じことを言っていました。理工系の学生が地元就職する場合は、研究室単位で行っている共同研究などをしていると、その企業に就職するという話がありました。文系の場合には、インターンや商品開発などがそれにあたると考えます。大人同士の結びつき大事ですが、その中心に学生がいるという認識が重要になってきます。今後はそれが数字にどのように結びついているかが大切であると思います。また、ミライバシと同じようなことをしています。岩手では、高校生と大学1・2年生を対象に、県内企業が200ほど集まり、自治体や企業との交流をしています。学生は私服で参加しており、タイムマネジメントなどの運営も、学生が行っていました。企業側のメリットについては検討しなければならないかもしれませんが、企業の参加費用は1万円で、学生は就職活動として参加するのではないので、笑顔で企業の話聞くことが出来ていました。大学進学前に地元企業を知ることで、こんなに良い企業があるなら、岩手県内の進学を考えようかなという思考になると思いました。

参加学生が多いことに驚き確認すると、岩手大学や岩手県立大学、盛岡大学もキャリア教育授業の一環として、授業1回分として参加しているということです。ミライバシでも課題になっていたと思いますが、自由に参加してくださいという形式では、なかなか参加者が集まらないと思います。

(産業界委員)

基本的な形が出来上がっている中で恐縮ではありますが、産学官連携における推進協議会の中で、雇用と人材育成が絡んでおり、商工会議所の立場と同時に、専門学校もあり、専門学校の学生も就職者のウェイトをかなり占めています。高校を卒業し、進学者のうち3分の1は専門学校で、その学生の全員が就職をするということではありますが、雇用対策や人材育成に対して、このプラットフォームの中には全く専門学校が入っていないです。従来の前橋6大学との産官学連携の中で、進んできたことだと思いますが、行政側としてどう考えているか意見をお聞きしたいと思います。

医療、保育、福祉の分野などあらゆる分野で人材の数を占めているので、専門学校の分野も数値として入れることができると考えています。以前前橋市から聞いたことですが、専門学校の数値がわからないということで、調査していないことや数値がわからないので、プラットフォームに入っていなかったのか、そのあたりも含めて見解をうかがいたいです。

(事務局)

課題のところで専門学校を含む大学と配慮したつもりでした。資料の中では高大となっているが、括弧書きで(専)として配慮させていただいています。6大学が集まって出てきた数値があるように、今後部会などでは、専門学校の皆様から出てくる数値も含めて、若者定着だけでなく、人材を前橋の中でどう活用していくのか考えております。外国人の方をどうするのかなども含めて議論をしていければと考えています。これから資料を作る上でも、考えていきたいと思えます。

(教育界委員)

参考ですが、専門職大学ということがあり、文部省の中で高等教育に入ってきているので、今後は設置するタイミングで高等教育の中に入れる必要があるのではないのでしょうか。

(事務局)

今後も高大(専)産接続ということで配慮していきたいと考えています。

(産業界委員)

産業界が、人材や雇用も含めて、非常に気にしているところだと思います。かなりの人数が県内に就職をしているので、その数字もどのように表すのか大切になってくるのではないのでしょうか。

(大森委員長)

中島理事長のおっしゃるとおりで、このプラットフォームを立ち上げるときに、やはり議論に挙がった点であります。資料2の中教審の話など、大学界として急いで立ち上げた背景

もあり、経済団体も他にもたくさんあることや、専門学校の方にも部会にたくさん入ってもらうことなど、今後専門学校の皆さんにもデータを出し合ってもらえるなどできればより良いのではないかと考えておりますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

(教育界委員)

インターンを活かすこと、共同研究を活かすことなど、当然のこととしてできるとよいと思います。就職や若者の定着などに繋がればよいと考えております。インターンを実施することで、企業の魅力をどう伝えるか、大学の魅力をどう伝えるかが大切だと考えており、本学でも従来やっていなかったような研究課題を取り上げることで、関心を持ってもらっています。大学も自分たちの資源を拡充し、地域と連携しながらそういう領域を増やしていければよいと考えています。共同研究やインターンなどの魅力は学生に、とても通じるので、ぜひそういった活動をしていただけるとありがたいと感じています。

(行政委員)

ミライバシは、高校生を対象に職業観や就職をより現実的に意識してもらう発想から実施しました。大学でも高校でも新卒の離職率が高く、経済界から相談を受けています。そうした中で、家庭の時からそういう職業観をきちんと持っていただければよいのですが、なかなか大きい話で、現実的には難しいようです。岩手県では高校生、大学1・2年生を対象にしていることを聞いて、それも良いと感じました。高校生が最終的に職をもつことを意識してもらいながら、当然進学もその途中にあるというストーリーを持って、人生を生きる必要があると考えています。ミライバシは企業から参加費用をもらい出展してもらったのですが、単にパンフレットで紹介するのではなく、企業には体験型での参加を依頼しておりまして、高校生に企業の魅力を知ってもらう機会を作らせていただきました。急に決まった日程の問題などあり、日程の周知が十分にできなかったことや、学校行事の一環として取り入れることについて説明をしたのですが、学校側もイメージが十分出来なく、学校側が生徒に説明しきれなかったことが後悔している点です。来年度は4月25日に開催を予定しており、各高校で授業の一環として参加してもらえる予定です。グリーンドームのメインイベントエリアを使用し、企業さんに出展いただきます。就職を前提にした高校生もいますが、進学を前提にした高校生もたくさんいるので、専門学校や大学の皆さんにも参加をお願いしたいと思います。市内企業の皆さんにも体験型のイベントを考えていただきたいと思っています。その中で、大切なのは意識なのかと考えております。事前に企業さん自身のアナウンスが出来ていないことが離職率にも繋がってしまうのではと思っており、参加にあたり、自社の魅力は何なのかを考えていただきたいと思っています。今後も産官学で連携して新しい取り組みをしていく必要があると感じています。

(行政委員)

地域とともにある学校というのが最近よく言われています。学校の職員だけでなく、地域の方々を多く取り入れて、子ども達を育てていくということです。前橋市としては、昨年度28年度に桃井小学校、29年度にわかば小学校にコミュニティースクールを設置して、まだ始まったばかりです。今年には各学校に周知を行う予定で、大森先生に講師として、コミュニティースクールとはなにかを、人を集めて話をさせていただきました。コミュニティースクール設置によって、こんなに良いところがあるとわかってもらい、広げて行きたいと考えています。子ども達にとっては、直接地元の方々に学校に入ってもらうことで、地域の良さを知ることになり、卒業後、その場に根づいてくれたらいいなと考えています。

(教育界委員)

産官学それぞれ課題を出してもらい、これらの課題を解決するために、互いに知恵を絞りながら、前に進む必要があると感じました。財源の問題なども、捻出はどうするのかなど気にしながら、聞いておりました。

(大森委員長)

財源の問題については、部会の中で、具体的な事業化をしたときに、どのくらい費用が必要なのか、受益者負担の部分や大学の流用費や、市の予算などの場合もあります。その他のところで、持続的なプラットフォーム構築として、自走しているような例もあるということなので、見学に行くなど、あるいは事務局をどういうふうに運営をしているのかなど、先進事例も取り入れながら、持続可能な体制を実施していきたいと思います。

(オブザーバー)

国として何ができるかということについて、ハローワークを使って協力できることがいくつか頭の中で思いつきました。うまく使っていれば、皆さんのお役に立てるのではと思っています。イベント事を企画すると、大学、専門学校、高校の方、など予定が合わなくて、参加できないなどよくあります。校長先生からは今年の話ではもう間に合わない、もうちょっと早く教えて欲しかったなどご意見をいただくこともあり、企画をする中では、長期的な視野で動くの良いと考えていますが、行政は年度で動く為、来年の話がなかなか出来ないで、このあたりも含めて長期的な視野で話ができると、上手くいくのではと思っています。

(オブザーバー)

県庁でも学生向け、移住者の促進ということで、UIJ ターンなど開催しています。親御さんへのアピールや学校教育の問題として、高校生や、さらに小さい時から、中学生・小学生の時からどう教育していくのかなど、県の中でも議論になっています。そういった部分について、県のほうでも協力させていただきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

ます。

(大森委員長)

たくさんのご意見ありがとうございました。各界からの課題などは重なっている部分もあるので、今後具体的に動くために、部会をどう設置するか、部会にはどんなメンバーに入っていただきたいかなどの原案を事務局で揉んで、次回第 2 回運営委員会でお示ししたいと思います。

以上